



岡山県内経済情勢報告

令和 7 年 4 月 22 日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 向井
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	

設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超幅が拡大している	「上昇」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、商品単価の上昇に加え、季節イベントの需要が好調なことから前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、お手頃感のあるおにぎりなどが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、気温が低下したことによりエアコンなどが好調なことから前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか、季節商品などが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、節約志向からインテリアなどが不調なことから前年を下回っている。乗用車販売は、軽乗用車及び小型乗用車などが増加していることから前年を上回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物産展やバレンタインなどの催事需要が好調な中、物価高の影響から消費するものと節約するものを選択しながら購入に至る「メリハリ消費」の動きが続いている。(百貨店)
- 物価高の影響から生活防衛意識による買い控えの動きは継続しているものの、クリスマスや年末年始などの季節イベントに寿司やオードブルなどの需要が好調だった。(スーパー)
- 物価高による節約志向の高まりから弁当などの高単価商品が買い控えられているものの、お手頃感のあるおにぎりなどが好調だった。また、販売価格の上昇により客単価は増加傾向にあるため、売上げは増加している。(コンビニエンスストア)
- 新規出店効果や商品値上げの影響により、来店客数、売上げともに増加している。去年は暖冬だったが、今年は気温が低下したことから、季節商品のカイロなどが好調であった。またインフルエンザなどの流行により風邪薬も好調であった。(ドラッグストア)
- 物価高で節約志向が高まっていることから客数が減少している。また、寒波により凍結防止商品などが好調だったものの、節約志向から寝室家具などのインテリアや値上げしているペットフードなどが不調だった。(ホームセンター)
- イベントなどの商店街活性化の活動により人流は増加し、コロナ禍前を上回っている。今後もイベントの開催方法の工夫を継続することにより、売上げ増加に期待している。(商店街)
- 商品値上げの影響や旅行・イベントに伴う来店客数の増加により売上げは増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。価格を選別する傾向は弱まり、値上げを受け入れて購入する顧客が増えている。今後の万博などのイベントによる外国人観光客の増加にも期待している。(専門店)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送用機械は、造船で豊富な受注残を抱えていることに加え、自動車で生産量が堅調に推移することから、概ね横ばいとなっている。化学は、高機能樹脂の需要が堅調なことから増加している。汎用・生産用・業務用機械は、需要が堅調な中、減少している。電気機械は、在庫調整が進展する中、需要が底堅いことから、概ね横ばいとなっている。鉄鋼は、建設需要が低調に推移する中、生産量は概ね横ばいとなっている。

このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 市況が軟化しているものの、豊富な受注残を抱えている。(造船)
- 国内外の需要に弱い動きがみられるものの、自動車などに使用される高機能樹脂は堅調な需要となっている。(化学)
- 国内外からの堅調な受注を背景に一定数の受注残を抱えている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 在庫調整が進展する中、需要は底堅く、生産量は概ね横ばいで推移している。(電気機械)
- 中国での鋼材需要の低迷など海外経済の回復ペース鈍化による影響を受ける中、国内では建築・土木向けで引き続き弱い動きがみられる。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が前年を下回っているものの、有効求人倍率は概ね横ばいで推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（7年1-3月期）の従業員数判断BSIでみると、「不足気味」超が続いている。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 物価高により製造業や建設で求人を控えている一方で、新規出店が活発な卸売・小売や、事業拡大の動きがみられる運輸、郵便、及びインバウンド需要が増加している宿泊で求人が増加する動きがみられている。（職業紹介）
- 運転手の高齢化と退職増加により人手不足が顕著になっている。（運輸、郵便）

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 製造業では、生産能力の増強投資により自動車などで増加見込みとなるものの、前年度に大型設備投資を行った反動から繊維や情報通信機械などで減少見込みとなっていることから、前年度を下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、前年度の大型投資の反動により運輸、郵便などで減少となるものの、店舗の新設や改装により小売、設備更新の実施により情報通信などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。

- 生産能力増強のほか、施設の老朽化対策や耐震工事のための設備投資を予定している。（自動車）
- 複数の大型設備更新のための設備投資を予定している。（鉄鋼）
- 前年度に工場増設の大型投資を行ったが、今年度は主に付帯設備等の新設を予定している。（繊維）
- 需要の拡大に合わせた設備増強などの大型設備投資を継続して行っているが、年度の半ばには完了する予定となっている。（化学）
- 店舗改装に加え、システム更新に係る設備投資を予定している。（小売）
- 既存設備の更新を予定している。（情報通信）
- 前年度に新設物流拠点の大型投資を行ったが、今年度は維持更新が主な内容となっている。（運輸、郵便）

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 製造業では、原材料費の上昇により木材・木製品などで減益見込みとなるものの、価格転嫁を進めている化学や海外からの需要が好調な生産用機械などで増益見込みとなっている。
- 非製造業では、人件費などが上昇している卸売などで減益見込みとなるものの、価格転嫁の進展により情報通信や、宴会利用などが回復している宿泊、飲食サービスなどで増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超幅が縮小している。なお、翌期は「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅などが増加しているものの、貸家が減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出は、品目別では鉄鋼などが減少しているものの、石油製品や化学製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東などで減少しているものの、中南米やアジアなどで増加している。

岡山県内経済情勢報告

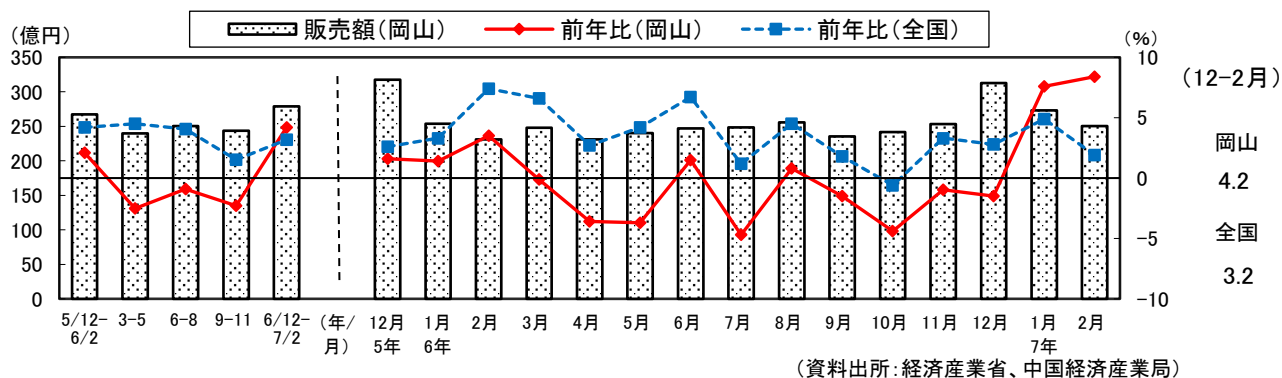
資料編

目次		ページ
1. 個人消費		1
2. 生産活動		3
3. 雇用情勢		4
4. 設備投資		5
5. 企業収益		5
6. 企業の景況感		5
7. 住宅建設		6
8. 輸 出		6

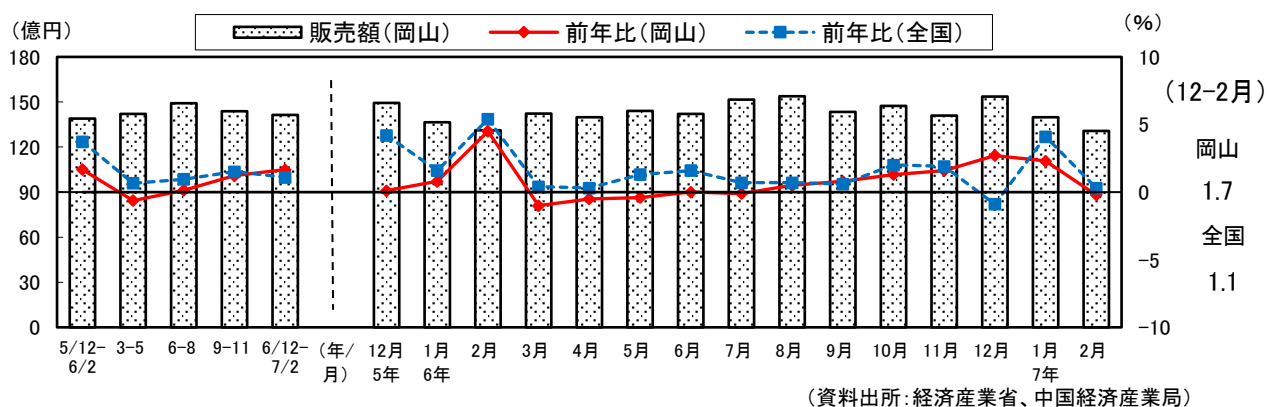
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費 緩やかに回復しつつある

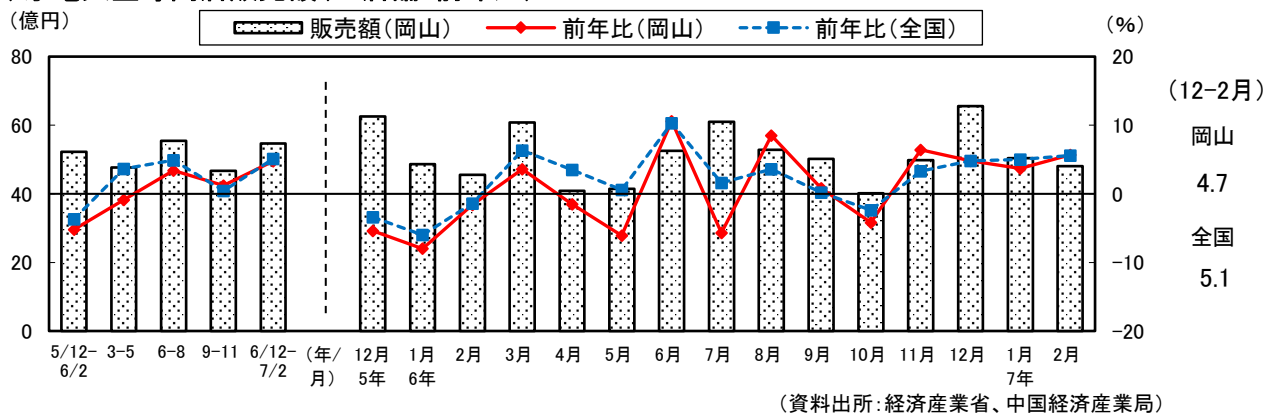
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比) (注)(1)～(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均



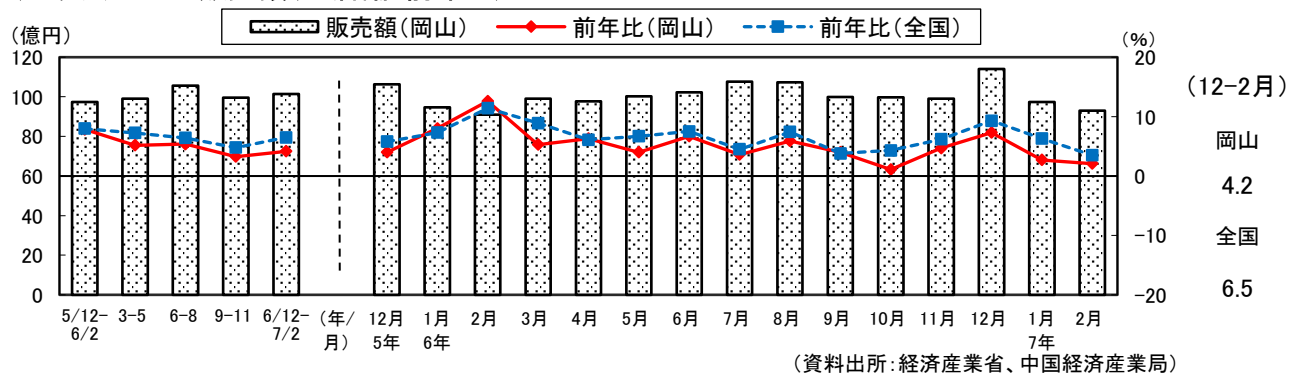
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



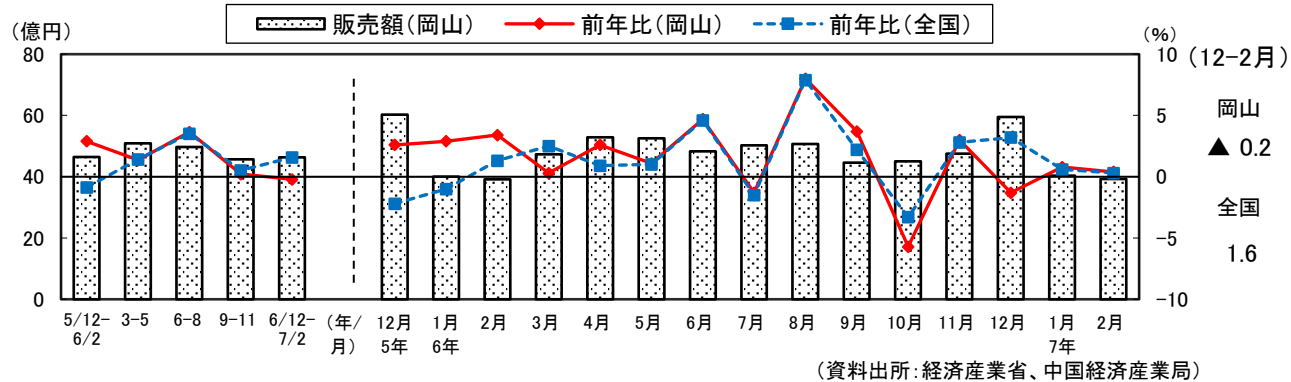
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



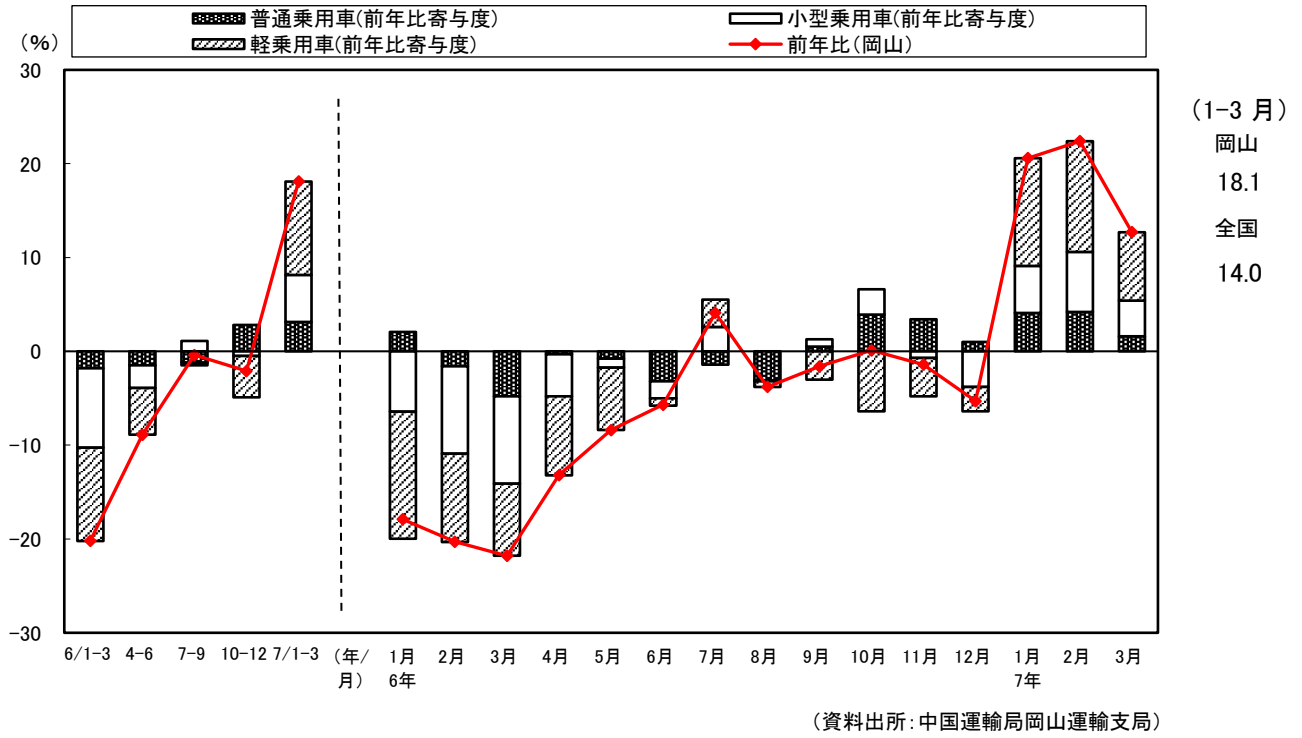
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



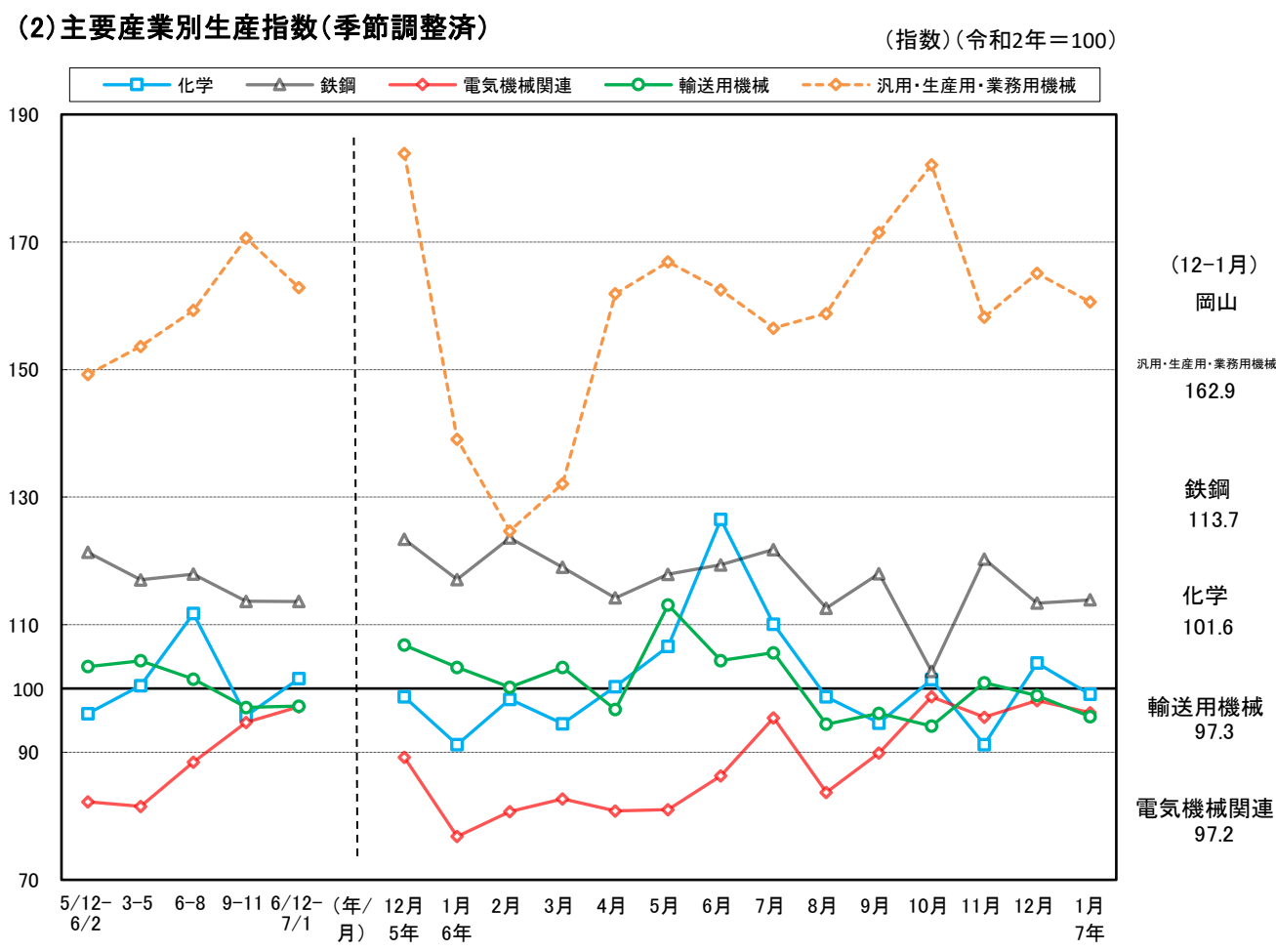
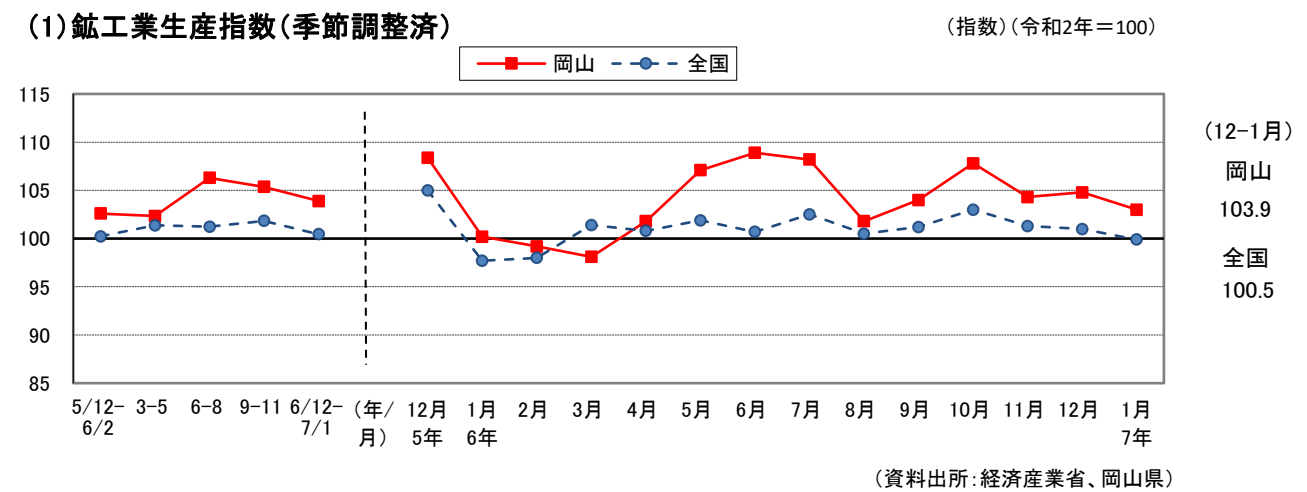
(5)ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



(6)乗用車販売(新車登録・届出台数)

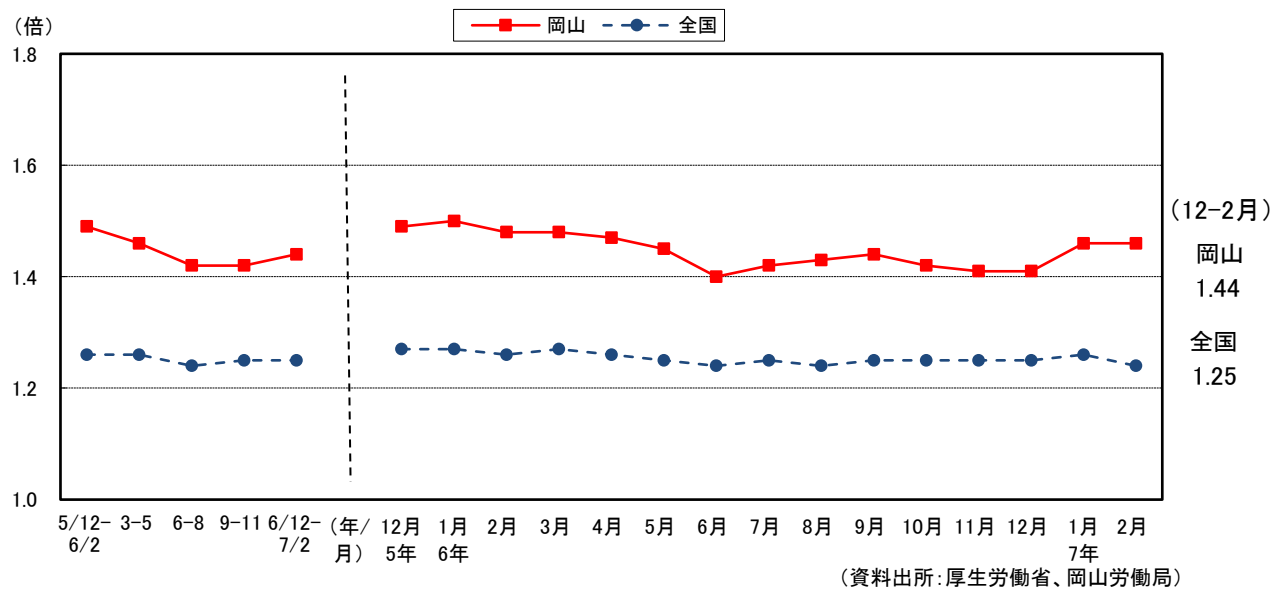


2.生産活動 緩やかに持ち直しつつある

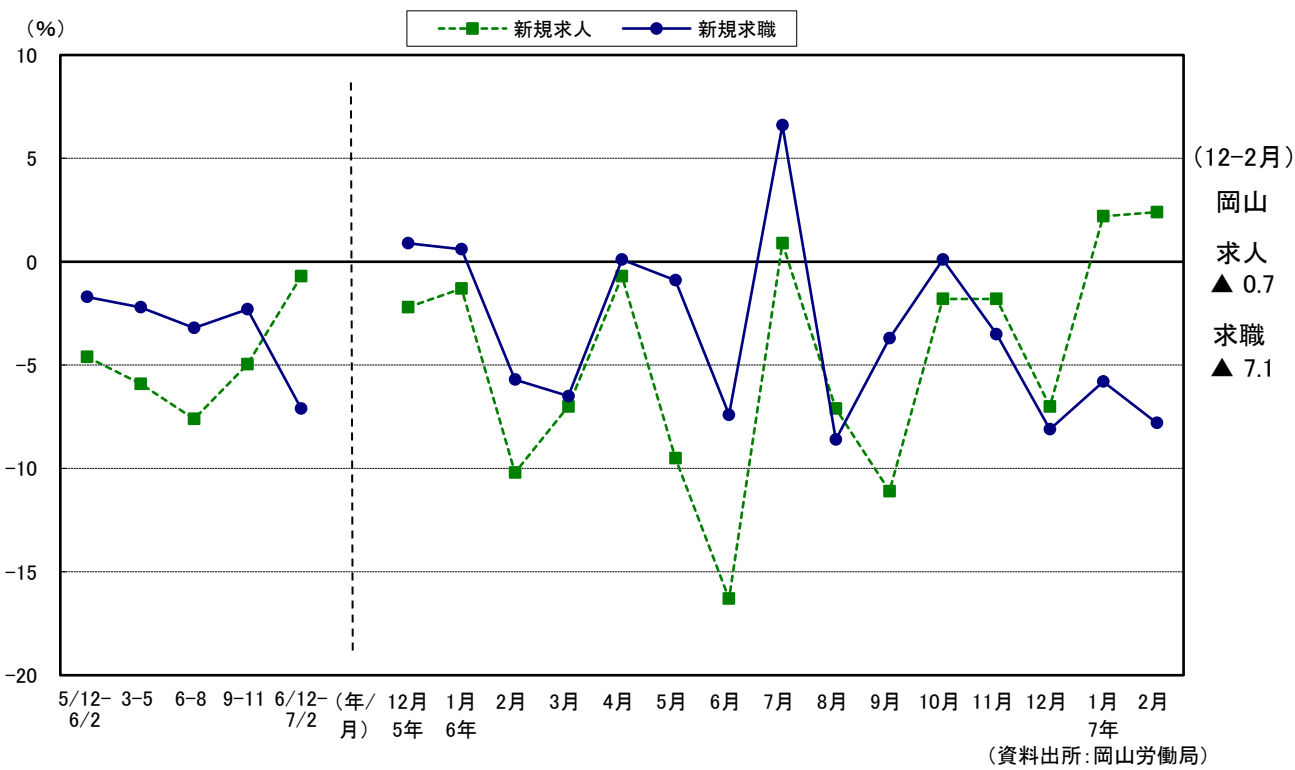


3.雇用情勢 緩やかに改善しつつある

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



4.設備投資（除く土地、含むソフトウェア投資） 6年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率：%)					
設備投資	全産業		製造業		非製造業
6年度	(10.6)	8.6	(▲0.4)	▲ 0.5	(43.8) 36.2
7年度		22.9		4.5	81.4

(注)当所法人企業景気予測調査(7年1～3月期)結果
()書きは前回(6年10～12月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益（電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く） 6年度は増益見込み

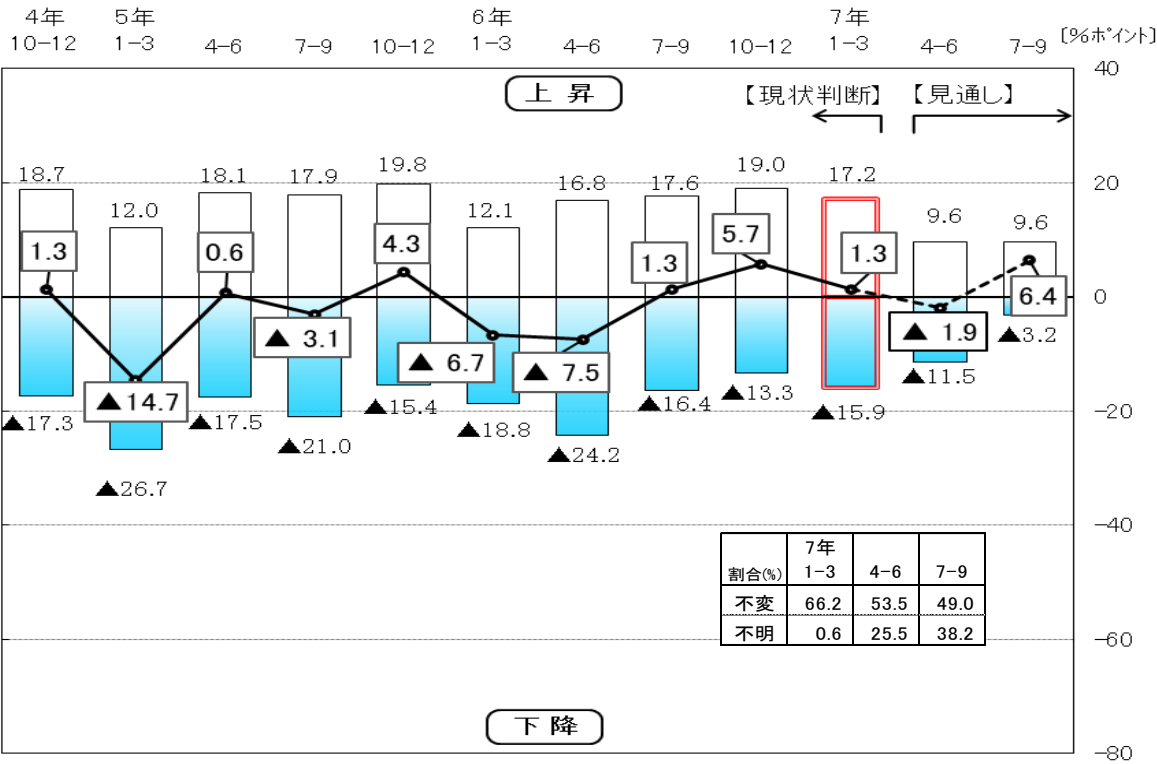
(前年度比増減率：%)					
経常利益	全産業		製造業		非製造業
6年度	(16.6)	76.4	(41.4)	131.2	(▲11.9) 13.5
7年度		▲ 54.0		▲ 62.6	▲ 23.0

(注)当所法人企業景気予測調査(7年1～3月期)結果
()書きは前回(6年10～12月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感 「上昇」超幅が縮小している

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

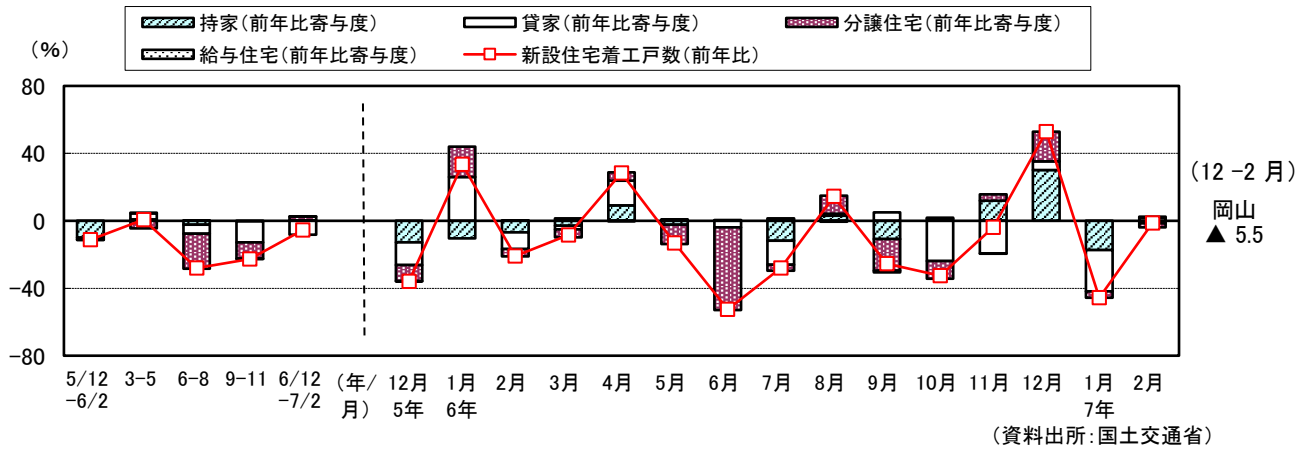


(注)当所法人企業景気予測調査(7年1～3月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

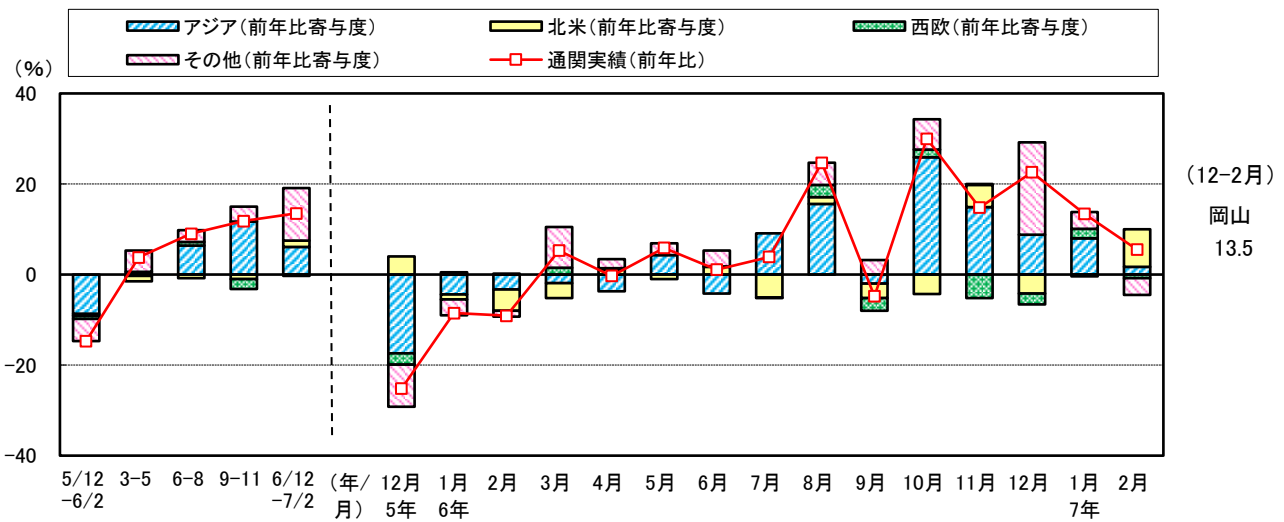
7.住宅建設 前年を下回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8.輸出 前年を上回っている

輸出(円ベース)



<参考>

(資料出所:神戸税関)

輸入(円ベース)

